

幸福

島崎藤村

青空文庫

「幸福^{しあわせ}」がいろいろな家へ訪ね^{たず}て行きました。

誰でも幸福の欲しくない人はありませんから、どこの家を訪ねましても、みんな大喜びで迎えてくれるにちがいありません。けれども、それでは人の心がよく分りません。そこで「幸福」は貧しい貧しい乞食^{こじき}のような服装^{なり}をしました。誰か聞いたら、自分は「幸福」だと言わずに「貧乏」だと言うつもりでした。そんな貧しい服装をしていても、それでも自分をよく迎えてくれる人がありましたら、その人のところへ幸福を分けて置いて来るつもりでした。

この「幸福」がいろいろな家へ訪ねて行きますと、犬の飼って

ある家がありました。その家の前へ行つて「幸福」が立ちました。その家の人は「幸福」が来たとは知りませんから、貧しい貧しい乞食のようなものが家の前にいるのを見て、

「お前さんは誰ですか。」

と尋ねました。

「わたしは「貧乏」でございます。」

「ああ、「貧乏」か。「貧乏」は吾^{うち}家じやお断りだ。」

とその家の人は戸をぴしやんとしめてしまいました。おまけに、その家に飼つてある犬がおそろしい声で追い立てるように鳴きました。

「幸福」は早速ごめんを蒙^{こうむ}りまして、今度は鶏の飼つてある家の

前へ行つて立ちました。

その家の人も「幸福」が来たとは知らなかったと見えて、いやなものでも家の前に立ったように顔をしかめて、

「お前さんは誰ですか。」

と尋ねました。

「わたしは「貧乏」でございます。」

「ああ、「貧乏」か、「貧乏」は吾家^{うち}じや沢山だ。」

とその家の人は深い溜^{ため}息^{いき}をつきました。それから飼つてある鶏に氣をつけました。貧しい貧しい乞食のようなものが来て鶏を盗んで行きはしないかと思つたのでしよう。

「コツ、コツ、コツ、コツ。」

とそこの家の鶏は用心深い声を出して鳴きました。

「幸福」はまたそこの家でもごめんを蒙りまして、今度は兎うさぎの飼つてある家の前へ行つて立ちました。

「お前さんは誰ですか。」

「わたしは「貧乏」でございます。」

「ああ、「貧乏」か。」

と言いましたが、そこの家の人が出て見ると、貧しい貧しい乞食のようなものが表に立っていました。そこの家の人も「幸福」が来たとは知らないようでしたが、なさけというものがあると見えて、台所の方からおむすびを一つ握つて来て、

「さあ、これをおあげ。」

と言ってくれました。その家の人は、黄色い沢庵たくあんのおこう
こまでそのおむすびに添えてくれました。

「グウ、グウ、グウ、グウ。」

と兎は高いいびきをかいで、さも楽しそうに昼寝をしていまし
た。

「幸福」にはその家の人の心がよく分りました。おむすび一つ、
沢庵ひとときれ一切にも、人の心の奥は知れるものです。それをうれしく
思いまして、その兎の飼ってある家へ幸福を分けて置いて来まし
た。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学名作集（下）〔全2冊〕」岩波文庫、岩波書店

1994（平成6）年3月16日第1刷発行

2001（平成12）年5月7日第12刷発行

底本の親本：「藤村全集第九卷」筑摩書房

1967（昭和42）年7月10日発行

初出：「婦人之友」

1921（大正10）年1月

入力：門田裕志

校正：えにしだ

2019年2月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

幸福

島崎藤村

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>